

実践報告

札幌市立北都小学校

(1) 研究内容

研究課題：サッポロピリカコタンを活用した学習の研究

- 命あるものや自然を大切にするアイヌ文化について、体験的な活動を通して学ぶとともに、自分自身や友達に対し大切に関わろうとする意識を高め、社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育む。

(2) 実践の内容

【実践】「サッポロピリカコタン」体験プログラム事業について

○ ねらい

サッポロピリカコタンの施設見学と体験プログラムを通して、アイヌ民族が自然を大切にして生活していたことを学ぶ。

○ 学習内容

4年社会科「昔から今へと続くまちづくり」及び総合的な学習「みんな友達」と関連させ、施設見学及び体験プログラムへの参加を通して、アイヌ民族の生活や歴史、芸術について理解を深める。



アイヌ語であいさつ、「イランカラプテ」。



アイヌ楽器の紹介と演奏

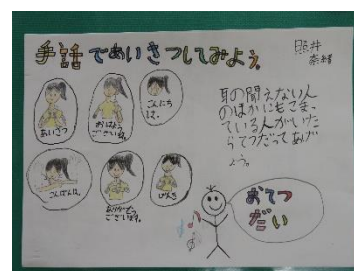
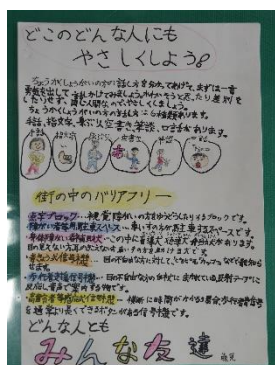


アイヌ舞踊や切り絵の体験

(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ サッポロピリカコタンでは、アイヌ民族の方を講師に体験プログラムを進めていただけたことで、体験だけで終わるのではなく、アイヌ民族の方との交流の場ともなり、差別や偏見なく生きる人間性を育む上で効果的な場となった。特に、「地球上にあるもの全てをカムイ（神）と捉え大切にしている」というアイヌ民族の考えや思いを直接聞くことができたことは、収穫であった。
- ・ 体験プログラムや施設見学により、アイヌ文化について実際に見たり聞いたりやってみたりできたことは、児童にとって教室での学習では得がたい、実感の伴った理解につながった。
- ・ 今年度は人権教育の充実という観点から、アイヌの人々だけに留まらず、障がいを抱える方々や外国人留学生との交流等も取り入れ、「みんな友達」という共生の意識を高める教育活動を充実させることができた。



② 課題

- ・ 「サッポロピリカコタン」の体験プログラム、施設内外の展示物は充実しており、限られた時間内で何を行うのかを、ねらいと児童の実態・人数を鑑みて施設側と調整していく必要がある。
- ・ 「サッポロピリカコタン」の所在地は、本校から離れた位置にあり、貸切バスの利用なしでの訪問は難しい。また、貸切バスを利用する場合、基本的に保護者負担が発生するので、なかなか校外学習を増やすことができないのが現状である。そのため、本事業のような費用助成は非常にありがたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 社会的な差別や偏見なく生きる人間性を育むためには、まずは相手のことを知ること、理解することから始まると考える。今回、「サッポロピリカコタン」を訪問し、講師のアイヌ民族の方から直接お話を聞くことができたことは、児童にとって非常に意味ある場であった。人権教育に関わっては、本校ではほかにも総合的な学習の時間や外国語活動を関連付けて、異文化交流・異文化理解のための場を設けている。一つ一つの取組が単体で終わることなく、それぞれの学校の教育活動全体で進めていくことが大切である。